

【議題】 令和3年度実績と課題について

相談窓口での住宅探し申請等件数

	高齢者世帯	障害者世帯				子育て世帯	生活困窮世帯			LGBT	その他	合計
		身体	精神	知的	計		低額	生活保護	計			
申請	53	6	12	0	18	7	10	8	18	1	3	100
契約	14	2	7	0	9	0	2	2	4	1	0	28
継続中	17	3	3	0	6	1	2	2	4	0	2	30
キャンセル	22	1	2	0	3	6	6	4	10	0	1	42

キャンセルの主な理由

【高齢者世帯 22件のキャンセル】	【子育て世帯 6件のキャンセル】	【その他世帯 1件のキャンセル】
・都営住宅当選1件、都営住宅希望3件	・都営住宅当選1件、公社住宅決定1件	・希望物件なし1件
・自分で探した10件	・自分で探した3件	(80代夫婦と50代娘の世帯)
・引越をやめた3件	・家を購入1件	
・施設入所へ1件、入院1件		
・希望物件なし1件	【生活困窮世帯（低額）6件のキャンセル】	
・死亡1件	・自分で探した2件	
・認知症により高齢者支援課へ繋いだ1件	・自立準備ホームへ1件	
	・都営住宅希望1件	
【障害者世帯 3件のキャンセル】	・希望物件なし2件	
・自分で探した2件（身体1・精神1）	【生活困窮世帯（生保）4件のキャンセル】	
・都営住宅当選1件（精神1）	・自分で探した2件	
	・宿泊所へ1件	
	・引越をやめた1件	

事務局の感想

キャンセルは多いが、自分で探せる世帯が増えていることから、市内不動産店の受入れが進んでいるように思う。

世帯別の現状と課題

【高齢者世帯の現状と課題】
契約成立割合が30％弱、キャンセル割合が40％強
物件がどんな物件でも良い訳ではなく、畳や追い炊き機能付き風呂、トイレ・風呂別、バス停近く、スーパー近くなど条件が多い。
また、老朽化による立退き(9件)も多いが、同居家族との関係性の悪化(9件)による別居も多い。コロナの影響は1件
持家の老朽化（床が抜ける・屋根が抜け落ちるほどの2件）は、本人からではなく、関わりのある地域包括支援センターやケアマネージャーからの相談による。
↓
人生最後の引越と考えるため、なかなか妥協しない。
単身者が圧倒的に多い。
単身高齢者が入れる物件が少なく、レオパレスは受け入れてくれるが、学生向けのロフトや家具付き物件が多く高齢者向けではない。
持家の人は、危険な状態であっても自分で相談することを考えないため、関係機関からの情報提供は重要
【障害者世帯の現状と課題】
契約成立割合は50%、継続中も6件あり、障害者世帯は時間がかかる⇒精神障害者は事務局が本人の精神状態をみながら動く
精神障害者は、親族や病院の協力は得られない方が多い。
身体障害者は、家族・病院・介護事業所等と連絡を取りながら調整する。⇒早く決まるため、とても良い。
【子育て世帯の現状と課題】
相談件数自体が少ないが、大半がひとり親世帯、又は離婚を検討している母親からの相談
年齢が若いため、また親族の協力があるため自分で探せる。
家賃滞納・更新料滞納など立退きを求められるまで放置し、慌てて相談に来るひとり親家庭があった。
【生活困窮世帯（低額）の現状と課題】
生活保護受給を拒み、家賃を下げて生活を成り立たせようとする世帯が多い。
初期費用・移転費用が捻出できず諦める世帯がある。
【生活困窮世帯（生保）・その他の世帯の実情と課題】
生活保護世帯は、高齢者世帯や障害者世帯にも含まれ、支払いの心配がないため安定している。
L G B T のケースでは、自分の名前を嫌い、保証会社からの審査に答えずに落ちた。2件目の審査時には、電話受け答えの事前練習を実施した。

申請には至らなかった相談 12件（以下、一部を紹介）

- 火災により、焼出されたしまったが、親族に頼れず集会所に暫くの間いた世帯
集会所の手配に関しては、危機管理課と文化振興課、被災者の対応に関しては、地域共生課と住宅課が対応した。
住宅を探すことを前提に住宅課が対応したが、実際には住宅を探す決断をするまでに1月近くかかり、それまでの間は被災者の不安な心情に寄り添う形となった。
- 父と息子（23歳）の二人世帯、父が息子に愛想をつかし居住中のアパートの契約を解除し出て行った。息子の居場所がなく、現金もアルバイト収入しかない。
地域共生課からの相談、シェアハウスを案内した。祖父母からお金を借りて、自分で探してみるとのこと。
- 高校野球部の寮母を住み込みでしていたが、定年で退職、量も出なければならない。月2万円の年金でどうしていいかわからない。
地域共生課からの相談、都営住宅毎月募集を毎月応募した結果、当選。
- 老人ホームの職員から相談。入居者間でトラブルがあり、退所させたいがよい現金をあまり持っていない方、よい方法はないか。
現金の問題であれば「年金担保貸付」を案内。それ以前に本人たちの意向を確認すべき。